☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆ 輝く地域の星となれ ☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆

報道で見る氷上西高　２０１９

読売新聞　令和元年１１月２日（土）

新作和菓子 季節感じて

氷上西高生 あす販売

丹波市の県立氷上西高校3年生が、地元和菓子店の協力を得て、新商品の「栗餅」と「タピオカ抹茶プリン」を開発した。青垣町佐治地区で3日に開かれるイベント「丹波八宿青垣の秋」の会場で、生徒たちが販売する。

栗餅は、身近な特産品の「丹波栗」をサツマイモのあんと餅でくるんだ。タピオカ抹茶プリンは、生徒たちの好物3種類をミックスして作った。

生徒7人が選択科目「地域ビジネス」の授業で今春から取り組み、9月に試作品が完成。青垣町の和菓子店「荒木本舗」が改良を加え、イベント限定の商品として売り出すことが決まった。

餅は1個200円、プリンは350円（いずれも税込み）で、50個ずつ販売する。

「栗の味を生かし、秋の季節感を出すためサツマイモをあんにしました」と行明珠里さんは自信満々。山根都美さんも「幅広い年齢に好まれる味になったと思います」と話している。

新しい和菓子のポスターを手にする生徒たち（丹波市の氷上西高校で）